

NEWS LETTER

2021 VOL.35

変革へのチャンス

DESIGNPHIL NEWS LETTER

デザインフィル ニュースレター 第35号

発行日 | 2021年1月31日

企画・編集 | マーケティング部 広報グループ

TEL 03-5789-8058 FAX 03-5789-8470

株式会社デザインフィル

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-19-19 恵比寿ビジネスタワー9F

www.designphil.co.jp

DESIGNPHIL NEWS LETTER

2021 VOL.35

変革へのチャンス



MESSAGE FROM THE PRESIDENT

災い転じて福となす



代表取締役社長

会田一郎

歴史的に忘れ得ぬ2020年から2021の年が明けました。そろそろ違う話題をと思っても、昨今新型コロナウイルスを抜きにして語るのは難しいのが実情です。であればこの稀有な災厄が私たちの生活、ビジネスに与えるプラスの面を考えてみたいと思います。

〈逆境は隠れていた問題を炙りだす〉

日本がデジタル化で世界的に遅れているという事実はショックでした。1位でないにしても日本はそこそここの先進性と組織だった対応という意味では、トップ10位ぐらいまでにはランクされるのではないかというのが私たちの感覚であったと思いますが、現実はその想定をはるかに下回りました。しかし、中途半端にそこそこであるよりも、取り組まざるを得ない実情は、私たちにとって痛みを伴うチャンスとも言えます。通り難かった予算案も通りやすくなり、私たちの「このままではダメだ」という自覚は変革の原動力になります。この危機を機会に変えるためにはそこで働く私たちの自覚と行動が全てと言っていいでしょう。事実に目をつぶり、次を考えずただ元に戻るのを待つか、自分のこととして捉え、考え、行動するかで決まります。コロナ禍はハードな形ですがそのチャンスを与えてくれました。

〈それが本当に必要かどうかを教えてくれる〉

忘年会や新年会、各業界の賀詞交歓会などが軒並み中止になっています。これらは精神的な開放感や気分転換や長期に渡る人との繋がりに資するという建前ですが、効果とコスト・リスクを比べると「今やるべきこと」ではないので、やめるか、やり方を変えることになったのです。変革へのチャンスは私たちが疑問なく受け入れている現状からの引き算の中にあります。ペーパーレス、ハンコレス、キャッシュレス・・・。

〈売れるモノは「無くなる」のではなく「変わる」〉

売れるモノは巣ごもり消費ニーズなど環境変化に応じるものだったり、Eコマースなど求められる販売流通方法に応えるものだったりさまざまです。この変化は新しい芽が出るきっかけにもなっています。ベンチャー企業の中には大きく業績を伸ばしている企業も多数あります。なぜ売れるのか、その理由がこれまでの延長線上にないことが多いので発想の転換が必要ですが、それができる会社にとっては大きなチャンスです。

〈デジタル化〉

リモートワークが成り立つことを実体験してみると、想像した以上に私たちの仕事が頭脳労働であることがわかります。一方創造性を發揮する、関係性を築く、モチベーションを高める、といった人ならではの仕事の重要性はさらに増し、デジタル技術はそのための道具として人をサポートします。RPAなどコンピュータが仕事を自動化する仕組みは、人ならではの仕事と組み合わせることで大きな力を發揮するでしょう。この分野の最適解はまだ先にあり、新しいサービスが生まれてくる領域だと思います。少子高齢化で人の手は足りないので、デジタル化がもたらす省力化は解決策となるはずです。

コロナ禍のいずれの示唆も「これまでのやり方だけでは次の繁栄を掴むことはできない」という厳しいメッセージを表していますが、多くの意思決定領域において、変えずに／変わらずに待つという選択肢を考えなくて良い、というプラス面は大きいと思います。待つという選択肢を除けば、掛け合せが一階層減るので意思決定は簡単になります。いずれにしてもコロナ禍は「これまで」の固定概念から脱却することを半ば強制的に促すもので、この災いを福となすべく、ためらわずに変革に挑んでいきましょう。



KNOX

SPECIAL EDITION

×日本の職人

～こだわり抜いたものづくり～



KNOXは1979年に誕生したプロダクトブランド。当時からの姿勢を受け継ぎ、クラフトマンシップ溢れる西欧の歴史や文化をリスペクトしつつ、日本の職人とタッグを組み、素材やつくりにとことんこだわったものづくりを行っています。今回は、KNOXを代表する2つのプロダクト「AUTHEN」と「JAPAN BLUE」、システム手帳のためにオリジナルで抄造している「DP用紙」をご紹介します。



AUTHEN
〈オーセン〉

This product is made by
skilled craftsmen in Japan.



➤革と伝統の技をこよなく愛する職人とKNOXの想いが詰まっている「AUTHEN」。KNOXを代表するフラッグシップモデルです。欲しい革は自分の手で作りたいという想いから、自らの手で目の前にある革に手を加え、オリジナルレザーを仕上げる縫製職人の出会いにより誕生しました。革へのこだわりと手間暇かけながらも惜しみなくつぎ込んでいる職人技の数々は、国内外の革好きなファンを魅了しています。

Behind the Scenes

KNOXの歴史を振り返るとその原点は「素材」と「つくり」に徹底的にこだわり、日本の職人技で最高のプロダクトに仕上げるスピリットに満ち溢れています。そんな妥協を許さない本物の手帳づくりを今この時代に蘇らせたいという想いから、新たなるKNOXフラッグシップモデルの追求に取り組んだのがこの「AUTHEN」シリーズです。KNOXが思考するデザインとこだわりを体现しています。



AUTHEN

が出来るまで

革だけではなく縫製や仕上げまで、職人技の数々をご紹介します。



1.革の加工 「納得のいく素材、欲しい革は自分の手で作りたい」という想いから、革の特徴を最大限に引き出す仕上げ剤とボリッシュ技術を編み出し、高級感溢れるオリジナルレザーに仕上げます。革の状態を見ながら、「塗って磨く」を2~3回繰り返す、非常に手間と力を要する工程です。

2.型抜き 一つひとつ手作業で曲げて作るスウェーデン鋼製の精巧な型を用い、木槌を使いながら丁寧に抜いていきます。木槌を振り下ろしたときの「バーン」と響く音は迫力満点。

3.表裏接着 縫製の前に表裏を仮接着します。表と内側がずれないよう注意しながら手帳が折れる部分のきれいなカーブを出していくます。

4.縫製 2、3針ずつ確認をしながらミシンで糸を通し、美しいステッチラインを表現。さらに、電気ペンでミシン糸をぎりぎりの位置で溶かして留めます。仕上げに、ステッチラインをハンマーで叩くことで、ステッチの凹凸を埋め込む。この工程も長持ちさせることと仕上がりの美しさや、使う人の手にも優しい配慮です。

5.コバ磨き 豆カンナを使い、コバの断面にアールをかけながら滑らかなエッジに仕上げることで、自然な表情の美しいコバが現れます。削り具合や磨き剤の量などは手が覚えているので、機械よりもはるかによい仕上がりに。

Interview

～インタビュー～ 松澤さんへの質問

_KNOXとのものづくりはいかがですか？

ブランドと職人の関係は難しいことが多いのですが、職人を大切に想ってくれるメーカーさんは少ないで、個人でやるより世界が広がりますし、とてもやりがいを感じています。垣根を取り払い、一緒に良いものを作ろうという姿勢が、ユーザーさんにも伝わっているのではないでしょうか。

_こだわっていることはどんなことでしょうか。

常にもっと使いやすくするにはどうしたらよいかを考えています。インスタグラムのコメントを見たり、ユーザーさんの声を聞いたりして、実際に見えないところでも改良を加えています。

松澤さんからのメッセージをこちらからご覧いただけます！



革工房松澤 kawacoya 代表 松澤邦幸さん

1996年に「革工房 松澤」を立ち上げ、革職人として企画から制作まで行う。一つひとつの工程にこだわりを持った丁寧な仕上げにファンも多い。KNOXでは「AUTHEN」以外にも「ILBUTTERO」を手掛けている。 <https://kawacoya.thebase.in/>

JAPAN BLUE

〈ジャパンブルー〉

This product is made by skilled
craftsmen in Japan.



↗ KNOXが長年にわたり本物の素材と匠の技を追求することでたどり着いたレザープロダクト。独自に開発した天然「本藍(ほんあい)」染料による本革染めと、上品なマイクロチェスエンボスは日本らしさを秘めた市松模様を連想させ、美しいブルーと相まってモダンで風格のある佇まいを演出します。

Behind the Scenes

～ものづくりの舞台裏～

「JAPAN BLUE」誕生のきっかけ

藍の世界は本物の素材、匠の技、日本製というKNOXのアイデンティティーそのもの。使い込んでいくと縦糸の白が現れてきて、さまざまな表情を見せるデニムのような世界観を、日本独特的藍染レザーで表現できないかと考えました。KNOXのこだわりの一つであるタンニン鞣しの藍染レザーと出会い、日本の縫製職人の手で形にした「JAPAN BLUE」が誕生しました。自然な風合いを生かした表情豊かなムラ感とともに、味わい深いエイジングをお楽しみいただけます。



藍染レザーとの出会い

KNOXならではのこだわりや完成までの苦労などについて、藍染レザーを開発された中村千之助商店の中村高志さんとKNOX開発担当の斎藤にお話を伺ってみました。

Interview

—KNOXで藍染レザーのプロダクトを作ろうと思ったきっかけは何ですか？

斎藤：日本独特の藍染をレザープロダクトで表現してみたいと思い、ずっと探していました。藍の世界はKNOXのアイデンティティーだなと思って。そんなとき、中村千之助商店さんの藍染レザーを用いた革靴に出会い、そこからKNOXらしいアレンジが始まりました。



中村さん：「こういうのを作りたい」と、本物のデニムのパンツが送られてきましたよね(笑)

斎藤：使い込んでいくとさまざまな表情を見せるデニムのような愛着の湧くプロダクトを、タンニン鞣しにこだわっている中村さんの革で目指したいと思いました。



株式会社中村千之助商店 代表取締役 中村高志さん
1920年東京浅草で革の製造(タンナー)皮革販売業として創業。現在は、その知識を生かした厳選した皮革素材を提供している。



—KNOXとタッグを組み、「JAPAN BLUE」が誕生するわけですが、KNOXらしいアレンジとはどんなことでしょうか？

斎藤：日本の藍色は大体48段階の色調があるといわれています。その中でKNOXらしい蓝色(ブルー)を考え、マイクロチェス模様のエンボスを入れて和の要素を取り入れつつモダンに仕上げました。

中村さん：エンボスを入れることで、藍染レザーの特徴であるムラ感に味わいが加わりましたよね。

—藍染レザーならではの魅力は？

中村さん：他の革と違って表面の仕上げをしていないので、一枚一枚の仕上がり具合が違います。他の革以上にムラ感や色の濃さなど併まいに個性が出てくるのが藍染レザーの魅力です。

斎藤：使い込むと風合いが変わり、同じプロダクトでも全く異なる表情を見せるので、その違いも楽しんでいただきたいですね。

—最後にユーザーの皆さんにメッセージをお願いします。

中村さん：過保護にし過ぎず、かわいがって欲しいと思います。革に現れてくる、使う方それぞれの歴史や表情を楽しんでください。

斎藤：二つとない表情豊かな「JAPAN BLUE」の魅力に浸っていただければ嬉しいです。

中村さんからの
メッセージをこ
ちらからご覧
いただけます！





DP PAPER

手帳に求められる携帯性の良さを追求
システム手帳のためのリフィル用紙「DP用紙」

薄いのに、透けにくい

薄いのに、にじみにくい

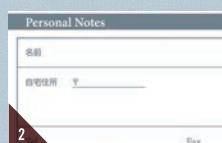
薄いのに、破れにくい

薄いのに、滑らかな書き心地

薄いから、たくさん収納できる

KNOXがシステム手帳にこだわって独自に開発したのが「DP(デザインフィルポケットブック)用紙」。リングに綴じて両面使う紙だからこそ、薄さと透けにくさ、そして破れにくい丈夫な紙で、滑らかな書き心地にもこだわりたい。そんな想いから特別に抄造した日本製の紙です。「ミドリ」の「MD用紙」とは対照的に、強度を増して硬い紙に仕上がるよう、繊維の長い針葉樹パルプを混ぜて抄造しています。

リフィルのこだわり



【1】2mm方眼

文字や線が自然に揃えやすい破線仕様で、書きやすさを邪魔しないオリジナル2mm方眼。

【2】視認性を高めた文字とモダンな配色

文字盤や標識にも使われる視認性が高いフォントを採用。万年筆で書いたような手書き風のストロークを残した風合いのある英数字とともに、落ち着いたグレートーンでまとめました。

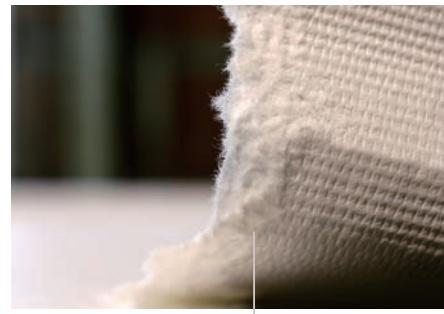
【3】目に優しい薄いクリーム色

紙色は目に優しく高級感のある薄いクリーム色。素材密度を高めることで、滑らかな書き味です。

【4】自由度を高めたデザイン

前後月のカレンダー、六曜などをページに記載せず、付録として集約することで、余白を最大限確保した自由度の高いデザインに仕上げています。

→ DP用紙ができるまで →



この長い繊維が破れにくい紙に仕上がる秘密。

ろ過を経た純度の高い水でパルプ繊維をほぐし、叩解(こうかい)工程を経ます。



「DP用紙」に使用するのは針葉樹の配分を高めて作られたパルプ。柔らかな風合いが特徴の広葉樹に比べて長い繊維が強度を増し、破れにくい紙に仕上がります。



紙の元となるパルプをまんべんなく広げ、高速で回転するワイヤーの上を流れていきます。



漉かれた紙を乾燥させ、キャレンダーで表面を平らにし巻き取ります。その後、さまざまな筆記具で紙の品質チェックを行います。

デザインフィル公式サイトで「JAPAN BLUE」対談のフルバージョンをご覧いただけます。

www.designphil.co.jp/style/newsletter/



KNOXのSNSでは、最新のお知らせや、使い方などを紹介しています。定期的にインスタライブも開催していますので、ぜひチェックしてみてください。

KNOX
SNS INFORMATION

@ [knox.japan.official](https://twitter.com/knox_japan_official)

f [www.facebook.com/knox.japan](https://facebook.com/knox.japan)

コロナ禍で人気沸騰！ 日記の新しい使い方

「ミドリ」の日記の「あたりまえ」品質

書き心地にこだわった「MD用紙」を使用
「ミドリ」の日記に使用している紙は、1960年代より自社開発している筆記適正にこだわったオリジナル用紙「MD用紙」。にじみや裏抜けがしにくく、書き心地を追求した紙です。



しっかりと開きやすい糸かがり綴じの製本
開きやすくて丈夫な糸かがり綴じを採用しており、ストレスなく書き進めることができます。（『きゅうじつ日記』、『おやすみ日記』、『しあわせ日記』、『きまぐれ日記』のみ、強度のあるPUR製本を採用しています）



ページをめくる度に変わるデザイン

『1年日記』ネコ柄、イヌ柄、夜空柄、ドライフラワー柄、『刺繍しおり日記』ネコ柄、トリ柄は、見開きで4柄デザインされているフルカラーのイラストが、日々の記録を賑やかに飾ります。絵柄の変化を楽しみながらお使いいただけます。



用途に合わせて選べる豊富なバリエーション
連用タイプ、スキマ時間に書くタイプ、持ち運びしやすいタイプなどさまざまなフォーマットとサイズをご用意。ご自身の用途やライフスタイルに合わせてお選びいただけます。

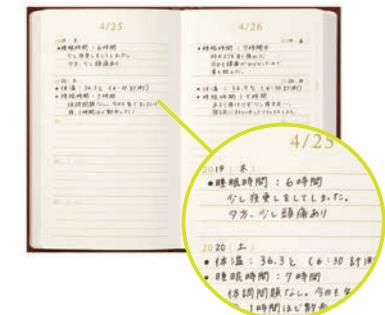


コロナ禍で、ライフスタイルが変化し、「おうち時間」が増えたことで、日々の出来事を綴ったり自分の考えを整理したりするために日記を書き始める人が増えています。今だからこそ残しておきたい「日々のできごと」を綴るのにぴったりのアイテムをご紹介します。

去年の自分に出会える連用日記

POINT

- その日のことを気軽に書き留められる連用日記
- 過去の自分を振り返りながら記入できます
- その日の気分、体調、体温などのライフレゴも



#おうちノート部 を楽しもう

POINT

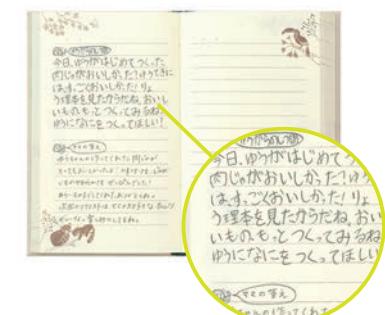
- シールやスタンプを使って自分だけの一冊を
- 日付がないので、書きたい日に書けるのも魅力
- 気軽に綴りながらオリジナリティー溢れる日記が完成



親子ではじめる交換日記

POINT

- 親子で楽しむコミュニケーションツールとして
- 1ページを上下半分に分けて、お子さんとお母さん・お父さんの日記に分けて書いてみましょう



「趣味のノート」のススメ

POINT

- レシピや映画、趣味を記録するノートとして
- 自分の好きなことを綴るので大切な一冊に
- 読み返す楽しさも



2020年度グッドデザイン賞(Gマーク)を受賞

『ダンボールカッター』
『マルチ定規』『パッとメモ』

ミドリ『ダンボールカッター』『マルチ定規』『パッとメモ』が、公益財団法人日本デザイン振興会主催の「2020年度グッドデザイン賞」を受賞しました。



マルチ定規



ダンボールカッター

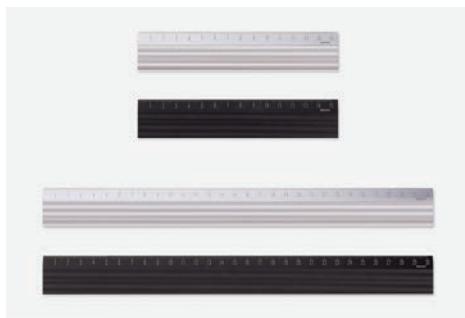


パッとメモ

Design Intelligence Award (DIA)を受賞

『ノンスリップアルミ定規』

ミドリ『ノンスリップアルミ定規』が、「Design Intelligence Award (DIA)」を受賞しました。



ノンスリップアルミ定規

第4回「文具女子博2020」に 「ミドリ」ブースを出展

2020年11月27日(金)～11月29日(日)に開催

4回目の出展となる「ミドリ」ブースのテーマは「文具旅」。カテゴリーごとに並んだ「ミドリ」のアイテムを、旅をするようにお楽しみいただきました。当日は、営業をはじめ製品開発、広報などのスタッフが説明員となり、お客様とのコミュニケーションを深めるよい機会となりました。尚、来場者の皆さんにご参加いただいた『シール付 レターセット』の人気投票では、「シマエナガ柄」が堂々の1位を獲得しました。



テーマは「文具旅」



文具女子博限定アイテム

デザインフィル役員人事のお知らせ

2020年9月24日(木)、株式会社デザインフィル定時株主総会を恵比寿本社にて開催し、下記役員が承認可決されました。

■役員一覧（2020年9月24日現在）

代表取締役社長	会田一郎
専務取締役	豊田栄一
取締役	太谷博司
監査役（非常勤）	下川良彦（株式会社キャム 代表取締役）

編集後記

2020年は歴史に残る年となりました。コロナ禍、自由にならない生活を送る中で、自分自身の在り方や家族、会社との関わり方、さらには生き方などについて、もう一度見つめ直す機会になったのではないかでしょうか。100年前にもスペイン風邪が流行し、オリンピックの開催が危ぶまれたとか。歴史は繰り返されるのですが、先人たちが克服し、今の暮らしがあります。現代に生きる私たちもさまざまな困難を知恵と技術で乗り越えて、2021年は明るさを取り戻しましょう。「変化はチャンス！」。皆さんにも良いことがたくさん訪れる1年になりますように。（編集長M.N.）